

岩城光英の永田町だより vol.263

猛暑が続いておりますが、呉々も熱中症などにはご留意願います。

67 回目の終戦記念日を迎えました。昭和 20 年のこの日も暑かったそうです。

午前 11 時に、超党派の「みんなで靖国に参拝する国会議員の会」の一員として靖国神社を参拝し、国民・国土を護る為に散華した英霊の御霊に拝礼してまいりました。暑い中ですが、本殿に昇り、英霊に向かい合う時は、身も心も引き締まる思いがいたします。

正午からは、日本武道館で、天皇・皇后両陛下ご臨席のもと、「全国戦没者追悼式」が挙行され、参列いたしました。全国 47 都道府県から遺族関係者が参集し、厳かに式が執り行われました。

ややもすると、時の経過とともに戦争の歴史が風化しかねない昨今ですが、その式典を行う意義を、私達日本人は忘れてはなりません。

17 日間にわたり繰り広げられたロンドン・オリンピックが閉幕しました。トライアスロンではメダルに達することができず、残念でしたが、日本は、メダル総数 38 個と、アテネ大会（37 個）を抜いて過去最高の成績を残しました。特に、サッカー・卓球・レスリング・水泳・バレーボール・重量挙げ・柔道など女子選手と、団体種目の活躍が目立った大会でした。多くの国民に勇気と元気を与えてくれた全ての選手に、心から感謝を申し上げます。

「戦後の繁栄と国家」

北野湘南

67 年目の終戦記念日を迎えた。第二次大戦で国富の 4 分の 1 を失った当時の日本は、「1 千万人が餓死する」とされるほどの危機的な状況だった。それを世界第 3 位の経済大国に引き上げ、世界で最も平和で安全とされる国に仕上げた。世界の奇跡とされる戦後の繁栄を築き上げた原動力は何だったのか？そして閉塞感が漂い隣国との緊張の高まる中でこれからの日本の進むべき道は“どのような方向か”原点に返って考える必要がある。

第二次大戦による死者は、軍人・軍属そして一般人を含めると総計 255 万人とされるが、これは政府の正式な統計によるもので、激しい空襲によって地域全体が消失したため被害状況が掌握できない例も少なくないことから、実際には 3 百万人を上回ると推定される。工場、鉄道、道路、港湾等の国富の損失は、25%に達した。さらに、人手不足による林業、農業関連の疲弊といった数字で表せない被害も甚大で、日本を最初に襲ったのは極端な食料不足だった。政府は、国民に平等に食料は配分されるよう配給制を取っていたが、昭和 21 年度の食料規定配給量は 1 人当たり 1 匁換算で 1170 匁に過ぎなかった。

翌年の 22 年度でも 1290 匁。人間が生きていくには最低 1400 匁を必要とする。「1 千万人が餓死する」との説が、極めて信憑性の高いものであったことがはっきりするだろう。幸い 1 千万人餓死説は、風評に終わったが、裁判官であるから法を守るとして闇食料を拒否した東京地裁の山口判事が栄養失調のため死亡した。太ることばかりを心配しダイエットに励む人が多い飽食の現在では、信じられないだろ

うが、その日の食べ物さえ事欠き、生きていくのに精一杯。これが67年前の日本の真実の姿であった。

1950年代に入ると日本経済も安定するようになり、60年代に入ると高度成長時代が幕を開けた。66年には世界第5位の大国になり、その2年後の68年には第3位であったドイツを追い抜き世界第2位の経済大国に躍り出た。日本の躍進ぶりは欧米各国から「世界の奇跡」と賞賛された。今でこそ中国に追い抜かれて世界第3位となったが、1人当たりの所得では中国の8倍以上ある。全体の経済力は、ドイツの1.5倍以上でイギリス、フランス両国の合計を上回る経済大国の地位を保持している。経済成長ができるのは白色人種だけという欧米の常識を覆したのは日本だ。マレーシア、シンガポールの指導者らは「日本というモデルがあったことが成長の原因」と、はっきり認めている。日本の悪い面ばかりを強調する自虐史観が、間違いであることはこの一事で一目瞭然だろう。

日本が高度成長した理由の1つが、日米安全保障条約の締結により軽装備の軍事力で国を守ることが出来たことだ。終戦直後にソ連は、北海道へ軍事進出しようとしたが米国の牽制で断念した。朝鮮戦争の原因が、ソ連と中国の画策であることも解明されている。米国の強力な後ろ盾がなかったら日本の平和が保てなかったことが分かるであろう。勤勉で貯蓄性に富み、世界でもトップクラスの教育水準等日本が世界の経済大国となった理由は多いが、重い軍事費から開放され、経済発展に専心できたことも大きな理由であることは間違いない事実だ。

80年代末まで続いた東西冷戦の中で社会主義への道を唱える政党が一定の勢力を保持し、国民の支持も少なくな

かった。その中で日米機軸同盟を基本に自由経済こそが日本の繁栄の道であるとしてきたのは自民党だけであり、自民党の政治路線が正しかったことは歴史的な事実だ。その根幹となる日米基軸同盟が、大きく揺れている。発端は、鳩山元総理が沖縄知事に対して軽はずみにも「普天間基地を県外に移転させる」と出来もしない約束をしたことだ。おまけにオバマ米大統領に二枚舌を使い日米同盟に取り返しのつかない誤りを犯した。日本の排他的経済水域に中国艦船が頻繁に出没するようになり、中国が日本固有の領土ある尖閣諸島を自国の領土と声高に叫ぶようになったのは鳩山発言以降だ。さらに韓国から解決済みの補償問題をぶり返される侮りを受けるだけでなく、日本の領土である竹島に大統領が上陸する事件まで発生した。民主党政権に自国の領土を守る気概がないことを見透かされているのだ。

領土を巡る緊張関係が高まる中で心配なことは国旗、国歌を蔑ろにする一部の人達の心無い行動だ。

ロンドンの現地でオリンピックを応援した国民の誰もが国旗を振って応援し、国歌が演奏されれば感動して聞き入る。テレビで観戦している人たちもこの気持ちは、同じだろう。ところが、今でも卒業式で国旗の掲揚、国歌斉唱に反対し起立も斉唱もしない教師がいる。「尊敬に値する国でない」と言っているようだが、自由な言論が保障され、失業率は先進国の中で最低水準。女性が夜中に1人で歩ける安全な国は日本以外に殆ど無い。いかに理不尽な屁理屈か簡単に分かる。国歌、国旗を尊敬することは国を守る大きな第一歩との政策を明確にしているのは自民党だけだ。自民党をヨイショする気はさらさら無いが、日本の将来を考えたら自民党政権を復活させるしか無いだろう。